

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	島根県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	松江市立乃木小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	5	5	5	5	2	32	48
児童数	174	180	183	171	166	178	7	1059	

研究の概要

1. 研究主題

『生きる力をもつ子どもの育成をめざして』
 -自らの課題を設定し、主体的に解決していこうとする子をめざして-

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1年生～6年生・算数
 児童の理解の状況に差が出やすい教科，学年であるため。また，計算力の定着があまり良くないという実態があるため。
- ・ 1年生～6年生・国語
 話す，聞く，書くなどの表現力があまり高くないため。また，漢字などの基礎的な学力の定着があまり良くないという実態があるため。
- ・ 3年生～6年生・総合的な学習の時間(平成15年)
 育てたい子ども像から考え，この学習を大切にしていきたいと考えたため。

(2) 年次ごとの計画

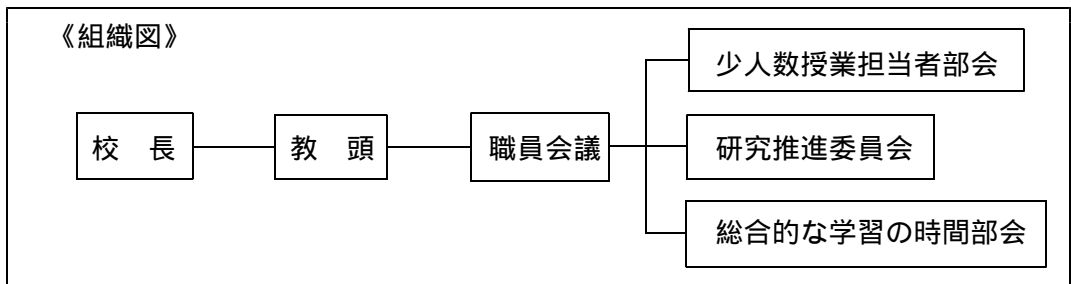
平成14年度	<p>テーマ 『生きる力をもつ子どもの育成をめざして』 -自らの課題を設定し、主体的に解決していこうとする子をめざして-</p> <p>仮説 《基本仮説》 課題意識をもつような教材との出会いの場を設定し，その課題を解決しようとする追究意欲が途切れないように一人一人の実態に応じたきめ細かな支援をすれば，主体的に課題を解決しようとする子どもが育つであろう。 《作業仮説》 「どうなっているのだろうか?」「どうしたらいいのだろうか?」といった疑問や驚きをもたせるような教材との出会いの場を設定すれば，一人一人が自分の課題をもつであろう。 課題を解決するには，何を調べなければならないのか目的意識をしっかりとらせ，追求のための時間を保障すれば，解決するための見通しをもって情報を集めるであろう。 自分の考えが伝わるように，説明文章や図・グラフなどの書き表し方，また話し方などを工夫させれば，人に分かりやすい表現ができるであろう。 自己評価や友達との相互評価を積み上げ，見直す場を設定すれば，自分の考えをふりかえることができるであろう。 学習を十分に理解できている子には，発展的な課題を提示し，十分に理解できていない子には，つまづきを分析し，学習状況に応じた課題に取り組みせれば，個に応じた指導ができるであろう。 1分間スピーチや短作文など日常的に，聞く，話す，書くなどの表現活動を工夫して取り入れれば，表現力を高めることができるであろう。</p>
--------	---

	<p>漢字・計算などの基礎的な学力は、繰り返し取り組めるようなドリル学習の方法を工夫すれば、定着させることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) 研究の仮説を踏まえた国語や算数や総合的な学習の時間の授業の実践や日常活動の実践を重ね、どのような活動や支援が有効か検証する。</p> <p>教材との出合わせ方や、追究する過程での支援の在り方を探る。単元の目標に照らし、発展的な内容とは何か、検討し、教材を開発する。</p> <p>児童のつまづきの原因を事前の実態調査等で把握し、補充的な学習の内容を探り、教材や支援の在り方を工夫する。きめ細かな評価を行い、少人数授業や習熟度別などの指導を行う。</p> <p>評価の方法やグループ構成の在り方を工夫する。教科担任制を6年生で取り入れる。</p> <p>(2) 1分間スピーチや楽しく書ける短作文などの表現活動を工夫して取り入れる。</p> <p>(3) 漢字や計算などの基礎的な学力の定着を図るため、ドリル的な学習の効果的な取り入れ方を工夫する。</p> <p>(4) その他の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校での朝読書 ・学習に関する基本的な生活習慣を見直し、全職員の共通理解を図る。 ・宿題の量や内容について工夫する。 ・総合的な学習の時間の評価規準を作成する。
--	---

平成 15 年度	<p>テーマ 同上</p> <p>仮説 同上</p> <p>研究内容・方法 重点教科に総合的な学習の時間を加える。 * 15年度からは総合的な学習の時間の研究も行う計画であった。</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ</p> <p>仮説</p> <p>研究の内容・方法 15年度末の成果・課題に基づき、内容・方法を検討する。</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>課題を見つけたり課題意識をもったりできるような教材との出合わせ方を工夫したりTTや少人数授業の形態を取り入れたりすることによって、進んで学習に取り組む姿や、目標とする内容を習得した姿が多く見られた。子どもの学習経験を踏まえ、TTで指導し、自分の考えを自分の方法で表現</p>
--

することができるように支援したことで、子どもの表現力も高めることができた。

今年度は、総合的な学習の時間の研究にも重点を置いて取り組んだ。指導計画を立て、計画的に実施し育てたい力がついたかを評価しながら、実践することができた。

学力に対する子どもの意識調査を実施することで、教師自身が高めなければならない学力を意識することになり、授業の在り方を振り返るきっかけとなった。

2. 今後の課題

課題を見つけたり自分なりの表現方法で自分の考えを表現したりすることは、できるようになりつつあるが、友達に分かりやすく説明したり、友達どうし関わり合って課題を解決したりすることができにくかったという昨年度の反省のもと、今年度は話し合うことを中心に研究してきた。その中で、課題に対する個々の考えをしっかりと持たせることや、それを表現する力を伸ばすことができた。しかし、個々の考えをもとに話し合うという場で、何について話し合うのかということが曖昧になっている場合があった。したがって、教材研究のときに、話し合いで、何について話し合うのかを明確にし、発問や板書などを十分検討しなければならないということが分かった。

学力等把握のための学校としての取組

《児童の意識調査》

目的

- ・ 国語と算数の学習について、学習内容やつけたい力についての子どもの意識を把握するため。
- ・ 学習の進め方や少人数授業についての子どもの意識を把握するため。

実施内容

調査項目（抜粋）

- ・ 算数でどんな勉強がすきですか。
- ・ 算数で今年どんな力をつけたいですか。
- ・ 勉強をもっと楽しくするためにお願いしたいことはなんですか。

時期

5月と2月に実施して比較する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

近隣の学校や他のフロンティア校へ研究授業の案内を出したところ、数名の先生が研究授業に参加された。

7月に市内の研究主任が集まる研修会でフロンティア校としての取組について発表した。

学校だより「ひらく」で、研究の様子・成果を保護者や地域に知らせた。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無